

今年もツバメがやってきた

～観察パート2～

熊本市立白川小学校 6年 福永 智之

1 研究の目的

昨年の研究に引き続き、ツバメの子育ての様子と巣作り、エサの様子を詳しく観察する。

2 研究の方法

- (1) カメラやビデオカメラで撮影、録画して調べる。巣の中は、カメラに長い棒をつけて観察する。
- (2) エサについては、ツバメの糞を集めて調べる。
 - ア 糞を集めてザルに取り、水洗いして2日間水につけた後、虫メガネで見ながら分解する。
 - イ 昆虫のかけらを集め、昆虫図鑑と比べて種類や名前を調べる。
- (3) 巣立った後の巣に残った物を調べる。

3 研究の結果（写真割愛）

(1) 成長と子育ての様子

- ア 4月3日、3月末に飛来したツバメが巣作りを始めた。20日に卵5個と抱卵を確認。
- イ 5月6日、5羽のふ化を確認し、その後親鳥がエサやりをしている姿も見ることができた。
- ウ 5月12日、ヒナが3羽に減っていた。午後見ると、巣が壊され、ヒナがいなくなっていた。その前日のエサやりでは、いつもならすぐいなくなる親ツバメが、もう1羽の親が帰ってくるまで巣にとまっている姿が見られた。
- エ 5月15日、親ツバメが巣を再建し始め、3日後に完成。21日に2回目の産卵を確認したが、1個目の卵が割られていたため、カラスよけを設置した。
- オ 5月22日～25日、1個ずつ計4個産卵。6月8日に2羽がふ化し、28日巣立つ。

(2) 巣の様子

- ア 巣は、主に土と枯れ草でできていた。土と枯れ草を口の中で混ぜている様子も確認できた。今年は、昨年の古い巣を修復して使っていた。
- イ 壊された後の2回目も古い巣に新しい土を付けて修復していった。
- ウ 巣立った後、残った巣の中には枯れ草の他、羽毛も敷き詰められていた。また、ふ化しなかった卵も残されていた。

(3) 糞の中から見つかった昆虫

多くの種類の昆虫の羽などが見つかったが、種類が分からないものも多かった。
 特定できた昆虫：テントウムシ、ハエ、アシタバチ、クワミキリ、ハムシ、ナフシ、クオナブシ、コガタムシ

4 考察（詳細は割愛）

- (1) 今年は、早い時期に飛来し2回子育てをした。1回目のヒナはカラスに襲われたと考えられる。ヒナがいなくなる前日、親ツバメが巣に残っていたのは、天敵から子どもを守っていたのだろう。自然界の厳しさと親の愛情を知ることができた。
- (2) 巣を土と枯れ草で作る、古い巣がある場合は再利用することが分かった。中に羽毛や枯れ草が敷き詰められていた。ヒナを温めたりクッションの役割をしたりしているのだろう。
- (3) ツバメは、さまざまな昆虫をエサにしているが、飛びながらこれだけの獲物を捕らえる素晴らしい能力があることも分かった。また、ツバメ自身も天敵につかまって食べられてしまうことがあり、自然の中で生きている動物は食物連鎖の中にいることが分かった。